

2026年関東地方支部旗開き新年会 船員の担い手確保は海運業界の最重要課題

真冬の寒波が押し寄せる1月8日、16時30分から関東地方支部の3階大会議室で現場組合員、職場委員、組合政治参与、国会議員をはじめとする各級議員、友誼団体、関係する行政機関、担当会社関係者など約400人が出席し、2026年関東地方支部旗開き新年会を開催した。

関東地方支部の旗開きは2020年の開催以降、コロナ禍で開催を控えてきた経緯があるが、今年も昨年に続き開催できる運びとなり、来賓あいさつには全横浜港湾労働組合連合会の堀内秀紀執行委員長と海員組合政治参与の浅尾慶一郎参議院議員、同じく海員組合政治参与の伊関功滋横須賀市議会議員に駆けつけていただき、執行部と職場委員、現場組合員が一致団結して、これからの組合活動を盛り上げる旗開きとなった。

旗開き新年会は木下友喜関東地方支部副支部長の司会ではじまり、主催者代表あいさつで高宮成昭関東地方支部長は「海運業界も船員職業の後継者の確保・育成が最優先課題。次世代を担う人材を育てることは、われわれ全体の使命であり、次世代の担い手のための環境整備なくして業界の未来はない。今年も関東地方支部は一丸となり、さまざまな課題について、状況を見極め努力を惜しまず取り組んでいく」と、海運業界の将来は、官民労使一体で取り組む課題であることを強調した。

続いて、本組合を代表して松浦満晴組合長が「海運・水産産業を取り巻く状況は多くの課題が山積しており、あらゆる産業で人手不足、人材確保競争が激化している中、船員職業の担い手の確保は業界全体の最重要課題の一つで、官民労使が一体となり全力で取り組まなければならない。本組合も船員職業を夢見る子どもたちが一人でも多くなるよう、船員の魅力を広く知ってもらい、海に親しむ活動も含め組合活動に全力を尽くす」と、海員組合が実施している体験乗船や各地域での体験授業、海員組合独自の奨学金制度の成果などに触れ、船員の後継者確保・育成に向けての活動に積極的に取り組むとともに、産業別労働組合として一致団結して執行活動にまい進していくと述べた。

参加者が歓談する中、安藏巧関東地方支部在籍専従執行部員が本旗開き新年会に寄せられた祝電を披露した後、ヴァイオリン、ピアノ、声楽による演奏会が行われ、会場は和やかな雰囲気になった。

最後に、大滝恒関東地方支部長代行の音頭による「ガンバロー三唱」で、旗開き新年会を締めくくった。

「海員だより」